

「社会健康医学」基本構想検討委員会（第4回）会議録（議事要旨）

日 時	平成28年11月24日（木）午後3時00分から午後4時30分まで
場 所	ホテルアソシア静岡15階「ベラビスタ」
出席者 職・氏名	出席委員：7名（敬称略） 本庶佑、佐古伊康、田中一成、鶴田憲一、中山健夫、宮地良樹、 山本敏博 ※中山委員はwebによる遠隔参加 欠席委員：4名（敬称略） 徳永宏司、宮田裕章、望月律子、山本清二 事務局 副知事 吉林章仁 健康福祉部長 山口重則 健康福祉部部長代理 渡瀬浩 健康福祉部理事 壁下敏弘 健康福祉部管理局長 鈴木宙志 ほか健康福祉部職員
議 題	1 社会健康医学の研究推進に係る基本構想（提言）（素案）について 2 その他
配布資料	議事次第 「社会健康医学」基本構想検討委員会委員名簿 資料1 「社会健康医学」基本構想検討委員会（第4回）について 資料2 社会健康医学の研究推進に係る基本構想（提言）（素案）の骨子 資料3 静岡県の健康寿命の更なる延伸に向けた提言（素案） ※その他、資料として、山本清二委員、徳永委員、宮田委員からコメント・意見の提供があった。また、中山委員が「社会健康医学の教育・研究：京都大学の例」を示し、webによる遠隔でのプレゼンテーションを行った（当日、資料としては未配布）。

1 審議事項

- (1) 社会健康医学の研究推進に係る基本構想（提言）（素案）

2 審議内容

山口健康福祉部長から、第3回のまとめ、「社会健康医学の研究推進に係る基本構想（提言）（素案）の骨子」及び「静岡県の健康寿命の更なる延伸に向けた提言（素案）」について、資料1～3に基づき説明した後、各委員による議論を行った。

(1) 主な意見

- 健康寿命の更なる延伸というのは不老長寿の具現化にも通じる難しいテーマであり、健康長寿日本一の静岡県が「健康寿命の更なる延伸」をテーマに取り組んでいくことは価値がある。

- ・「社会健康医学の研究を推進することは、県民の健康づくりや疾病の予防に大いに役立ち、県民の満足度向上につながる」と明示すべきだ。
- ・医療専門職を対象にした教育や社会健康医学を理解する人材を育成することは、予防医療や先制医療が本県に定着することとなり、本県の医療水準が向上し、静岡県が社会健康医学のメッカとなりうる。
- ・ゲノムコホートの研究は、基礎研究から地域の臨床現場へのトランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）につながることで、健康寿命の更なる延伸に効果的で、県内大学における散発的な研究を集約・体系化することができる。
- ・提言では、社会健康医学の研究推進の効果を県民に分かりやすく示すため、【提言1】研究、【提言2】人材育成、【提言3】拠点に【提言4】成果（県民への還元）を追加する。提言1～4が県民に対して、社会健康医学の研究推進の必要性をより強く訴えるものとなる。

(2) まとめ

- ・本日の議論を経て、社会健康医学の研究を推進し、「静岡県の健康寿命の延伸に向けた提言」をとりまとめる。